

今日のトピック RBAの利上げは累計3%に到達
良好な雇用と家計消費に支えられて経済や豪ドルは堅調
ポイント1 5月以降の利上げは累計3%に

■ 12月6日、豪州準備銀行（RBA）は政策金利である翌日物金利の目標を0.25%引き上げて3.10%としました。今年5月に開始された利上げは8回目となり、利上げ幅は合計で3.00%に達しました。会合の前週に発表された10月の小売売上高が減少に転じ、消費者物価指数（CPI）も市場予想を下回る上昇となったことから、市場では緩やかな利上げペースを維持するとの見方が多く、今回の0.25%の利上げは、ほぼ予想の通りでした。

【消費者物価指数と政策金利】


(注) 消費者物価指数は2017年10-12月期～2022年7-9月期。

変動の大きい項目を除外したトリム平均値。

政策金利は2017年12月1日～2022年12月7日。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 良好な雇用環境を背景に、堅調な消費が経済成長を支えている

■ 12月7日に発表された豪州の7-9月期の実質GDP成長率は、前期比+0.6%と4-6月期の同+0.9%から小幅に減速しました。需要項目別では、家計消費や民間投資、在庫の項目がプラスの寄与となりました。中でも家計消費は、飲食や宿泊、旅行関連など、新型コロナ規制からの経済再開に伴う消費が上昇に寄与しました。今後、これまでの利上げの効果が発現してくるにつれて家計消費も緩やかに減速してくる考えられますが、雇用が安定していることや、足元でやや貯蓄率が減少しているものの依然過剰貯蓄が積みあがっていることから、今後も消費は底堅いと見られます。

【豪ドル円レートと豪日金利差】


(注) データは2019年12月1日～2022年12月7日。

豪日金利差は2年国債利回りの差。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 今後も豪ドルは底堅い見込み

■ RBAは声明文で、豪州のCPIは高すぎると言及しており、今後も利上げが見込まれます。ただし、金融政策の影響が顕在化するまでにタイムラグがあると指摘しています。このため、次回来年2月の会合以降、あと1回程度の利上げが行われた後は、政策金利は据え置かれると見られます。足元では、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げペースの減速が意識されて急速に円高が進んだことで、豪ドルの対円レートも直近のピークからは円高方向となりました。RBAも欧米の主要中銀も来年前半には継続的な利上げから様子見姿勢に転じると見られる中、今後も豪州経済は底堅いと考えられ、豪ドルも比較的堅調な推移が見込まれます。

ここもチェック! 2022年12月 1日 米国の利上げ減速でやってくる「外債投資の季節」
2022年11月25日 2022年12月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。